

## ぼーぐなんデジタル教材 *English in Action* Vol.3

電子ボードを使い、或いはタブレット端末を一人でクリックして、英語らしさを確かめながら英語を体験していく、という学習方法に慣れてこられたころだと思います。

*English in Action* Vol.1 では、英語を聞いていると何となく分かる、質問されたら身振りや表情も使って答えられる、自分のことを少しずつ言えるようになる、そんな感覚を子どもたちは捉えたことでしょう。Vol.2 では、英語の基本的なルール、それも「骨格」になる部分を感じとれるようにしました。これは子どもたち自身が無意識のうちに気づき始めているこ

ともあります。英語の言語的な知識については、まだまだ不十分ですが、それでも、英語を使うことに慣れてきていると思います。画面のイラストを見つめ、英語を聞き取って確認しながら、英語の「骨格」を頼りにしながら、少しずつ表現力が付いてきていると思います。

そこで、*English in Action* Vol.3 ではその「骨格」に少しばかり肉付けをしています。「こんなふうな～」という状況や形態を表す言葉(主に形容詞)や、「こんなこともできる」という動作の表現(動詞)を増やしました。そして、子どもたちが毎日経験し学んでいく知識を英語でも表現できるように、表現内容を選びました。

高学年になる頃には、知っていることを英語でも言える、ということが英語を学んでいく意欲につながると思います。Vol.3 では、いくつかの英語表現を続けることで、伝えたい情報が深まっていく、という経験をできるようにしてあります。パラグラフというほどではありませんが、だんだんに説明が発展して情報を増やし、英語で伝え合うおもしろさを体験してもらいたいと思います。

早口ことばを口ずさむことにも慣れてきているでしょう。英語の歌も上手に歌えるようになったと思います。日本語にはない「英語らしい音」を創り出すことにも抵抗感がなくなっているはずですが、英語教育の現場では、学習する時間がまだまだ少なくて、本格的に英語に触れる機会には恵まれないかもしれませんが、英語の言葉の仕組みに対する興味は深まってきており、自分の作りだす音と英語らしい音とを比べて、自分で修正していこうとする意欲も高まっているでしょう。ここまで成長してきた子どもたちが、英語という言葉で自分の気持ちを表現できそうだと、という気持ちを更に育てていって欲しいと思います。

2016年4月 久埜百合